

タイトル：円通律寺

12世紀の再建以来、円通律寺の神聖な道場は、高野山の僧侶が修行をする重要な場所となっています。現在でも、真言宗では、僧侶になる前に、ここで100日間、修行と瞑想をして過ごさなくてはなりません。円通律寺は高野山にあるいくつかの修行道場の1つです。

円通律寺は、奈良市の有名な寺、東大寺も再建した仏教僧、重源(1121-1206)が再建しました。さらに、この寺には最初、鎌倉時代(1185-1333)に活躍した、慶派の運慶(1150～1223頃)と、同時代の快慶(生没年不詳)という、2人の最も有名な芸術家が作った重要な仏像が数体収められていました。現在、この貴重な仏像のいくつかは、保存、保管、展示のために、高野山の霊宝館に移されています。

円通律寺は、年に一日のみ、太陰暦4月の花祭りの日に一般公開されます。ここで行われている重要な修行は、厳しく厳粛な性質であるため、通常、見学者が寺や境内へ入ることは許可されていません。このため、見学者には、円通律寺入口にある「立ち入り禁止」の札への配慮が求められています。